みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 4No. 1; Cover, Contents,and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009258

1979·3 4巻1号

国立民族学博物館研究報告

明治初期の飛驒地方における堅果類の採集と農耕——松山利夫
民族学研究における情報処理——コンピュータ民族学について——杉田繁治
Haxāmaniš-朝初期における小家畜管理——川瀬豊子
九州山地の民家——椎葉・米良地域を中心に——杉本尚次
沖縄本島北部農村の「門中」とその論理——沖縄の民俗宗教ノート(3)——伊藤幹治
国立民族学博物館所蔵の東南アジア島嶼部採集のカゴ細工について——中村俊亀智

国立民族学博物館
〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06－876－2151

国立民族学博物館研究報告

4巻1号　　1979年3月

目　次

明治初期の飛驒地方における堅果類の採集と農耕……松山利夫……1

民族学研究における情報処理
——コンピュータ民族学について——……杉田繁治……24

Haxāmaniš-朝初期における小家畜管理……川瀬豊子……43

九州山地の民家
——椎葉・米良地域を中心に——……杉本尚次……79

沖縄本島北部農村の「門中」とその論理
——沖縄の民俗宗教ノート(3)——……伊藤幹治……117

国立民族学博物館所蔵の東南アジア島嶼部採集のカゴ細工について
……中村俊亀智……130

彙　報……152

国立民族学博物館研究報告寄稿要項……154

国立民族学博物館研究報告執筆要領……155

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 4 No. 1 **March 1979**

MATSUYAMA, Toshio — The Combination of Nut-Gathering and Agriculture in the Hida Area of Japan during 19th Century 1

SUGITA, Shigeharu — Computer Use in Ethnological Studies 24

KAWASE, Toyoko — The Royal Management of UDU. NITÁ (Small Cattle) under the Early Haxāmaniš-Dynasty 43

SUGIMOTO, Hisatsugu — Rural Houses in the Mountains of Kyushu: the Example of the Shiiba and Mera Region 79

ITOH, Mikiharu — Structure and Function of *Munchu* —Notes on Folk Religion in Okinawa (3)— 117

NAKAMURA, Takao — Some Observations on the Basketry of Palawan, Borneo, Java and Sumatra 130

彙　報

（昭和53年10月～昭和53年12月）

人事異動

昭和53年

10月1日　河野正俊（管理部会計課）は，文部省大臣官房会計課経理班に転任

北尾善信（岡山大学経理部経理課）は，管理部会計課に転任

中川　隆を技官（情報管理施設技術室）に採用

仲野憲一（東京大学理学部）は，情報管理施設技術室電子計算機係長に昇任

仲野佳民を技官（情報管理施設技術室）に採用

干井孝之を事務官（管理部展示課）に採用

10月16日　石元宏廸（管理部企画課）は，大阪大学庶務部国際主幹付国際交流掛長に転任

奥野正明（大阪大学溶接工学研究所庶務掛）は，管理部企画課事業係長に昇任

小林正志（管理部企画課事業係長）は，管理部企画課普及係長に配置換

12月1日　田上仁志を技官（情報管理施設技術室）に採用

展示企画委員会委員の異動

1. 新　任

昭和53年11月15日付

石坪　　羌　大阪府企画部府民文化室長

加藤　秀俊　学習院大学教授(法学部)

2. 再　任

昭和53年11月15日付

五十嵐道子　朝日放送株式会社事業局事業部

大林　太良　東京大学教授(教養学部)

大貫　良夫　東京大学助教授（教養学部）

川添　　登　建築評論家

小松　左京　作　家

高田　　宏　エッソ・スタンダード石油株式会社広報部

多比良　稔　九州芸術工科大学教授（芸術工学部）

田邊　員人　九州芸術工科大学教授（芸術工学部）

谷　　泰　京都大学助教授（人文科学研究所）

中山　和彦　筑波大学教授（電子・情報工学系）

米山　俊直　京都大学助教授(教養部)

3. 任期満了

昭和53年11月14日付

中尾　佐助　大阪府立大学教授（農学部）

廣瀬　智生　大阪府監査委員事務局次長

展示企画委員会専門委員の異動

再　任

昭和53年10月1日付

辻　　三郎　大阪大学教授（基礎工学部）

館内合同研究会

昭和53年

10月11日　「電子計算機による画像情報の処理」　八村　廣三郎

11月22日　「日本人の集団志向性に対する疑問」　ハルミ　ベフ

12月13日　「映像・音響スタジオについて」　大給　近達，鈴村　　明

海外における研究・調査・収集活動

氏　名	出　発	帰　国	行　先
福井　勝義（第3研究部助教授）	53. 10. 1	54. 3. 20	ケニア，エチオピア，スーダン，ナイジェリア，ニジェール，マリ
吉本　　忍（第2研究部助手）	53. 10. 6	53. 10. 31	インドネシア
加藤　九祚（第1研究部教授）	53. 10. 8	53. 10. 25	アフガニスタン，パキスタン
梅棹　忠夫（館　長）	53. 10. 22	53. 11. 10	サウディアラビア，イラン，トルコ，エジプト，モロッコ
佐々木高明（第2研究部教授）	53. 11. 1	53. 11. 10	中華人民共和国
小川　　了（第3研究部助手）	53. 11. 1	54. 2. 5	セネガル，ガンビア，アイボリー・コースト，トーゴ，マリ，オートボルタ，ニジェール，ナイジェリア
小谷　凱宣（第1研究部助教授）	53. 11. 18	53. 12. 28	アメリカ合衆国，カナダ
小山　修三（第4研究部助教授）	53. 11. 18	54. 1. 15	デンマーク，ドイツ連邦共和国，連合王国，アメリカ合衆国
吉本　　忍（第2研究部助手）	53. 11. 19	53. 12. 1	中華人民共和国
藤井　知昭（第2研究部助教授）	53. 11. 29	53. 12. 24	イラク，エジプト，インド，アフガニスタン，ネパール
大森　康宏（第3研究部助手）	53. 12. 2	54. 1. 31	インド，フランス
祖父江孝男（第1研究部教授）	53. 12. 4	53. 12. 21	大韓民国
秋道　智彌（第2研究部助手）	53. 12. 11	54. 2. 9	アメリカ合衆国，アメリカ合衆国信託統治領太平洋諸島（ミクロネシア）

来館者抄

昭和53年

10月6日　A. G. Haudricourt（フランス国立科学研究センター研究部長）

9日　李　箕　永（韓国精神文化研究院研究三部長・東國大学校教授）

19日　江　　実（岡山大学名誉教授）

20日　渡辺　直経（東京大学教授）

21日　R. Lockheimer（日本大学総合科学研究所客員教授）

31日　Gerhard Bott（西ドイツ・ケルン市美術館・博物館連合総裁）

12月4日　青井　忠正（大阪工業大学長）

中国科学院訪日団

馬　大　猷（中国科学院物理研究所副所長・音響学）

張　莫　棠（中国科学院教育局責任者）

銭　志　道（中国科技大学研究生院副院長・化学）

秦　仲　方（中国科学院科学出版社責任者）

張　耕　野（中国科技大学副教務長・農業技術）

楊　士　林（浙江大学科学研究処責任者・化学）

汪　仁　樹（ハルビン科技大学教務責任者・機械原理）

朱　伯　同（中国科学院幹部部処長・農業経済）

袁　義　谷（中国科学院計画局幹部）

姚　佩　君（中国科学院外事局幹部）

9日　W. J. Withdrow（カナダ・オンタリオ美術館長）

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は，民族学（文化人類学）に関する論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等を掲載・発表することにより，民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は，次のとおりとする。
   (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織，運営に関与する者
   (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
   (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は，論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等のうち，いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお，この区分についての最終的な調整は，国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は，原則として論文及び資料・研究ノートを1段組，その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は，日本語，英語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし，その他の言語を用いる場合は，編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字，記号，印刷方法等が必要な場合は，編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で，日本語を使用する場合は，原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし，その他の言語による論文の場合は，編集委員会に相談するものとする。なお，寄稿する原稿については，執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は，原則として制限しない。ただし，編集する場合は編集委員会の判断により，紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は，必ず清書（欧文の場合はタイプ）し，原稿の写し1部を添付するものとする。なお，図，表のスミ入れ，レタリングは，編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は，審査委員会において審査のうえ，採否を決定する。なお，原稿は，採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い，掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては，別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は，次のとおりとする。

〒565　大阪府吹田市千里　万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は，200字詰原稿用紙を使用し，横書きとする。
2. 原稿は，図，表を除き，原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は，原則として当用漢字，現代かなづかいを用いる。
4. 句読点，括弧，各種記号等は，原則として原稿用紙のマス目１字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号，月日及びその他の数字は，原則としてアラビア数字を用いる。なお，年号は，原則として西暦とする。
6. 図及び表は，一図，一表ごとに別紙に書き，本文とは別に一括して添付するものとする。なお，図，表ごとに通し番号（「図１」，「表１」等の要領により記入），図，表名及び説明並びに出典等を記し，本文原稿の欄外には，それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は，写りの明瞭なもので，手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り，図及び表の扱いに準じて通し番号，説明を付けたうえ，そう入箇所を指定するものとする。ただし，カラー写真は，原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は，カギ括弧を付け，著者名，文献刊行年次，引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

   [柳田 1942: 67–69]

   [Leach 1961: 123]

   [柳田 1942: 67–69, 1944: 20–22; Leach 1961: 123]

   ただし，同年次刊行物の場合は，アルファベット順により，下記のように記載するものとする。

   [柳田 1942a: 20–22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は，一つ一つ別紙に記し，通し番号を付ける。なお，本文中に脚注をそう入する箇所には，脚注の当該番号を記入し，別紙の脚注には，本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は，すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

    (1) 文献の配列は，著者名のアルファベット順とすること。

    (2) 文献の記載は，著者名，年号，論題（タイトル），誌名，巻，号，出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は，イタリック体にするため，原稿には下線を引くこと。また，ローマ字人名は，スモール・キャピタルとするため，二重下線を引き，日本文の場合は，論題にカギ括弧，雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は，原則としてアラビア数字を用いること。

    （例）

    論文の場合 (1)

    石田英一郎

    1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311–330。

    Bohannan, P.

    1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357–372.

    論文の場合 (2)

    杉浦 健一

    1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店，pp. 117–143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23–63.

単行本の場合

泉　靖一

1966『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974『シャーマニズム――古代的エクスタシー技術――』堀　一郎訳　冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告　4巻1号

審査委員
梅　棹　忠　夫　　祖　父　江　孝　男
中　根　千　枝
編集委員
伊　藤　幹　治　　加　藤　九　祚（編集委員長）
黒　田　悦　子　　竹　村　卓　二
田　邊　繁　治　　垂　水　　稔

昭和54年7月25日　印刷
昭和54年7月30日　発行
非売品

国立民族学博物館研究報告　4巻1号

編集・発行　国立民族学博物館
〒565　吹田市山田小川41－1
TEL 06 (876) 2151 (代表)
印　刷　中西印刷株式会社
〒602　京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.4 no.1
March 1979

MATSUYAMA, Toshio — The Combination of Nut-Gathering and Agriculture in the Hida Area of Japan during 19th Century

SUGITA, Shigeharu — Computer Use in Ethnological Studies

KAWASE, Toyoko — The Royal Management of UDU. NITÁ (Small Cattle) under the Early Haxāmaniš-Dynasty

SUGIMOTO, Hisatsugu — Rural Houses in the Mountains of Kyushu: the Example of the Shiiba and Mera Region

ITOH, Mikiharu — Structure and Function of *Munchu* -Notes on Folk Religion in Okinawa (3)-

NAKAMURA, Takao — Some Observations on the Basketry of Palawan, Borneo, Java and Sumatra

ISSN 0385-180X

National Museum of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151